

# 石川県リハビリテーションセンターニュース

～平成29年度事業等について～

## 目次

在宅リハビリテーション検討会の開催	1
自立支援機器を用いた技術支援の人材育成事業	2
石川県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡会の活動のご紹介	3
障害のある方の社会参加を支える自動車運転支援	3
高次脳機能障害相談・支援センター事業	4
難病相談・支援センター事業	5
難病相談・支援センターのピア・サポート事業	6

## 在宅リハビリテーション検討会の開催 ～子どもからお年寄りまで、障害がある方々の在宅支援を目指して～

障害があっても住み慣れた地域で生活を営むことができるよう、「生活」や「社会参加」に対する支援の充実や、高齢障害者の支援の必要性が求められる中、一人一人の身体特性を大切にしたい自立性の高い生活の実現には、リハビリテーション技術支援（以下、リハ支援）が重要な役割を果たします。在宅医療の推進や医療と介護の連携において、県内どの地域の在宅生活者でも最適なリハ支援を受けることができる体制づくりを目指し、平成25～28年度の4年間でリハ支援に関する普及啓発事業に取り組んできました。今年度からは在宅リハ支援を提供している事業所の方々と、介護支援専門員、相談支援専門員、市町職員等が各地域において連携強化が図られるよう、身近な関係づくりの強化を目的とした「在宅リハビリテーション検討会」を展開しています。

この検討会は、能登北部、能登中部、南加賀、石川中央東（かほく市、津幡町、内灘町、金沢市）、石川中央西（白山市、野々市市、金沢市）の5会場で、子どもからお年寄りまで様々な障害のある方に在宅リハ支援を提供できる医療機関のリハ専門職が事業紹介を行い、参加した各支援者の方々と在宅リハ支援について活発なディスカッションが交わされました。地域包括支援センター、訪問看護ステーション、医療機関、居宅介護支援事業所、相談支援事業所、市町、県保健福祉センターの方々にご参加いただき、5会場で約200名の方の参加があり、医療・保健・福祉の多職種連携の強化を図ることができたと考えています。

当センターでは、引き続き在宅におけるリハ支援の充実を目標に連携体制づくりに努めていきたいと考えておりますので、今後とも関係機関の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

### ● 在宅リハビリテーション検討会のプログラム ●

- ・在宅リハビリテーション活動紹介  
（子どもからお年寄りまで様々な障害のある方への在宅リハ支援が提供できる事業所紹介）
- ・リハビリテーションセンターの活動紹介
- ・在宅障害者の事例検討
- ・自立支援機器の活用体験



在宅リハビリテーション活動紹介シンポジウムの様子



自立支援機器の活用体験の様子

## 自立支援機器を用いた技術支援の人材育成事業

当センターでは、障害のある方や高齢者に対する自立生活に向けた支援がなされるよう、リハ専門職をはじめ、医療・保健・福祉関係者の方々を対象にリハビリテーションに関する人材育成事業を行っています。中でも補装具等の支援が各地域での確に展開されることを目的に平成25～28年度に支援技術の人材育成研修を開催しており、今年度からは更なる充実を図るため、自立支援機器を用いたリハ支援の知識向上と普及促進を目指し、次の事業を行っています。

### ◆自立支援機器情報交換会◆

前年度までの研修会アンケートで、「福祉用具の情報が得にくい」という意見が多く、福祉用具メーカーの方々と囲んで最新機器についての情報交換ができる場を設けました。年3回の定期開催に加え、メーカーの来県に応じて随時開催を行っており、情報交換会の詳細は当センターのホームページに掲載しています。

なお、随時開催は、メールアドレスを登録された方に通知していますので、ぜひiprc@pref.ishikawa.lg.jpからご登録ください。

自立支援機器情報連絡会 テーマ	開催日	形式	参加者数
コンパクト電動車椅子	7月7日	臨時	21名
自動車改造部品	7月21日	定期	35名
座位姿勢に配慮した最新車いす	8月9日	臨時	21名
コミュニケーション機器～各種入力装置～	10月5日	定期	36名
車椅子部品～クッション・パッド等～	12月7日	定期	30名



自立支援機器情報交換会の様子

### ◆自立支援機器・住環境適合スペシャリスト育成研修 ～車椅子編～◆

今年度は車椅子をテーマに、対象者を福祉用具専門相談員とリハ専門職に分けて、各々3回1コースの研修会を開催しました。

福祉用具専門相談員対象の研修会については、車椅子メーカーのご協力をいただき、自走型・介助型車椅子の特徴や適応・調整のコツについて実技を中心に行い、メーカーの方との積極的なディスカッションが見られました。

リハ専門職対象の研修会については、車椅子適合の実践的な研修とするため当事者3名の方にご参加いただき、その方々の身体機能・ADL能力・環境面等の評価から機器の選定・試用評価・プラン作成までをグループワーク形式で行い、当事者の方を交えて和気あいあいとディスカッションが繰り広げられていました。研修終了後に事例レポートを提出いただき、今回の研修で得た支援技術を臨床で活かしていただくことができました。

今後も、より専門的な支援技術をもった人材が各地域に広がるよう努めていきたいと考えています。



福祉用具専門相談員対象の車椅子研修会の様子



リハ専門職対象の車椅子研修会の様子

#### ～ご協力いただいた当事者の方の支援が実際にスタート！～

今回の研修会で検討したプランをきっかけに、実際の車椅子製作支援が始まりました。ご本人は両足の痛みを抱えながらも自動車を運転し、外出先での歩行には押し車を使用して活発に社会参加されています。しかし、最近は腕の痛みが強く、歩行が辛い状況です。

研修会では、ご本人と受講生とで「外出先で自由に移動できる車椅子」の仕様について熱心に検討され、自動車にも積載できる軽量で折りたためる簡易電動車椅子が必要という結論が導かれました。

このプランをもとに、車椅子収納装置を装備した自動車による車椅子の積載動作をすることで実際の利用イメージを確認することができ、ご本人の自動車に車椅子収納装置を設置することを前提に、現在それらに対応できる電動車椅子の製作を進めています。



車椅子搭載装置での動作確認の様子

## 石川県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡会の活動のご紹介

当センターでは、地域包括ケアに対応するリハビリテーションの活動を推進するため、各地域で取り組まれている活動についての意見交換会の開催を、毎年、石川県PT・OT・ST連絡会に委託しています。

今回は、委託先である石川県PT・OT・ST連絡会の活動をご紹介します。

石川県PT・OT・ST連絡会 会長 東川 哲朗（公益社団法人 石川県作業療法士会 会長）

石川県理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の3団体が連携して、石川県PT・OT・ST連絡会を立ち上げました。県内のリハ専門職が一丸となりリハビリテーションの視点から、県民の健康の促進に寄与する会です。当会は、石川県リハビリテーションセンターのご支援により平成27年度に発会し、2025年問題と言われる高齢化社会への対応として国が進める地域包括ケアシステムについて、リハ専門職としてどのように関与できるかを検討し活動しています。

また、各市町では地域支援事業がスタートし、地域リハ活動支援事業等によりリハ専門職への期待が高まり、市町事業に関わるリハ専門職の体制づくりや人材育成を行ってきました。具体的には、加賀市や七尾市でのシンポジウムに引き続き、今年の2月にはリハ専門職が最も多い金沢市でシンポジウムを開催し、市から地域包括ケア推進の現状とリハ職への期待、在宅医療・介護連携等についてご講演いただき、当会からはその取り組みへの協力状況を報告し、今後の協力体制について検討しているところです。しかしながら、市町事業への協力となると身構える会員も多く、全会員に浸透していないことが課題として挙げられます。地域包括ケアシステムの中で、会員はどの立ち位置であっても、直接・間接的に何らかの関与が必須ですが、まだまだ関心の薄い会員がいることに危機感を持っています。

危機感と言えば、もう一つの重要なテーマとして災害対策が挙げられます。石川県は災害が少ないと言われてますが、能登の地震災害は記憶に新しく、昨今の国内各地域の災害を目にすると、今後、本県も災害に無関係でいられるとは思えません。リハ専門職の全国的な対応としてJRATの活動があり、当会ではこの活動についても人材育成や体制づくりが必要であることを強く認識し、研修会等を開催しています。

発足間もない当会ですが、県リハビリテーションセンターの力強いご支援と推進力のもとで各種活動が軌道に乗り始めています。今後も継続的な支援をお願いするとともに、当会が広く県民の地域生活を支えるためのリハビリテーションの発展に貢献できるよう、会員一同で関係事業に取り組んでいきたいと考えています。

## 障害のある方の社会参加を支える自動車運転支援

障害のある方にとって自動車運転は、自立生活や社会参加に大切な移動手段です。このため当センターでは、専門的なリハ支援の一つとして障害のある方への自動車運転支援を行っています。具体的な支援内容は、①運転能力評価、②動作指導、③制度等の情報提供、④身体特性に応じた運転補助装置の検討、⑤自動車運転に必要な機関との連携があります。今年度はこれらの支援を促進するため、リハ専門職を対象とした研修会を開催しました。

### ◆リハビリテーション医療専門職研修「自動車運転支援におけるリハビリテーション専門職の役割」

千葉県立保健医療大学の藤田佳男准教授と石川県警察本部交通部運転免許課の方を講師にお招きし、自動車運転支援に関わる際の基本的知識やリハ支援、適性相談の流れなどを学びました。研修会には96名の方が参加され、関心の高さがうかがえました。

### ◆当センターにおける自動車運転に関する相談・支援

今年度は1月末現在で83件の相談がありました。そのうち主に高次脳機能障害や片麻痺の影響による運転能力を評価目的とした自動車運転シミュレータによる評価は48件で、脳血管疾患が全体の73%を占めました。（図1）

また、運転免許の取得や受傷後の運転再開に向けた技術支援は35件で、脊髄疾患、骨関節疾患などの整形外科疾患が多く（図2）、支援内容は自動車への乗降、車椅子の積載、自動車運転等に必要となる自動車の改造や動作指導など、実際の運転技術獲得に向けた支援を行っています（図3）。

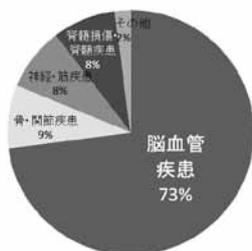


図1 シミュレータによる評価の疾患内訳



図2 運転技術獲得のための支援の疾患内訳



図3 自動車に車椅子を積載するためのリフトを設置し、自分で車椅子の出し入れができるようになりました

## 高次脳機能障害相談・支援センター事業

高次脳機能障害相談・支援センターでは、ご本人やご家族が安心して充実した生活を送ることが出来るように各種業務を行っています。

### ◆高次脳機能障害支援担当者研修会◆

当センターでは、リハ専門職向けに障害へのアプローチ方法を中心とした研修を行ってまいりましたが、専門職以外の支援者から基礎的な知識を学びたいとの希望があり、対象を広げ、内容を高次脳機能障害者を支援する上で押さえておきたい基礎的なものとして研修会を開催しました。研修は、「高次脳機能障害とは」に始まり、生活での観察ポイントや検査、代償手段の具体例などを講義形式で行い、100名を超える参加がありました。

参加者からは、「観察ポイントを聞くと思い当たるケースが多々あり、対応法を参考にしたい」「メモリーノートの活用や環境調整が重要だと感じた」など、今後の支援に活かせるという感想がある一方で、「実際の困難事例に対して、支援経過や対応方法をもっと詳しく聞きたかった」という意見もあり、今後の研修会に取り入れていきたいと思っています。

研修名	目的	対象者	内容
(新) 支援担当者研修会	地域で高次脳機能障害者を支援する上で必要な基礎的な知識を学ぶ	相談支援専門員、介護支援専門員など相談支援に携わる方	①医学的知識、②生活場面における障害の対応方法、③センター事業や実際の支援事例に関する講義
専門職研修会	急性期～生活期までの具体的な高次脳機能障害へのリハビリテーションアプローチを学ぶ	PT,OT,ST等のリハ専門職	毎年障害を絞り(H29年度は遂行機能障害)、具体的なリハ支援に関する講義

各研修会の目的等



研修会当日の様子

### ◆本人・家族のための知って得する高次脳機能障害講座◆

例年、家族向けに家族教室として開催していた講座を、今年度より本人・家族向けと対象を拡大し、7月から隔月の実施としました。毎回、「障害への対応」、「就労」、「社会資源」、「患者・家族会」といったテーマを設定し、参加者が興味のあるテーマを選択して参加できるよう工夫しました。

前半は講師による講義、後半は患者・家族会の方を助言者に参加者同士での座談会としました。今年度は4回の開催で延べ38人の参加があり、少人数の講座でゆっくりと話が出来たように思います。

#### ～参加者からの声～

- ・役に立つ情報を聞くことが出来た。(本人)
- ・同じ経験をされた家族からのアドバイスがとても参考になり、心強く感じた。(家族)
- ・参加する事で気持ちが軽くなり、心が楽になった。(家族)

### ◆高次脳機能障害に関する医療機関対応実態調査◆

当センターには「高次脳機能障害に対応できる医療機関を教えて欲しい」という相談が多く寄せられます。このため当センターのホームページに、今年度調査した「医療機関における高次脳機能障害への対応状況」を掲載しました。ぜひご活用ください。

→ 医療機関情報のホームページ: <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/iryokikan.html>

石川県内で高次脳機能障害に対応している医療機関（一部抜粋したもの）

医療圏	病院名	住所	連絡先		対応している項目											
			所属	電話	診断	治療	診断書作成	リハビリテーション								
								実施	対象		対応職種					
金沢市	石川県立中央病院	金沢市鞍月東2丁目1番地	患者総合支援センター	076-238-7852	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

#### NPO法人高次脳機能障害患者と家族の会 つばさ ～わたしたち家族会について～

《会員構成》石川県内の高次脳機能障害当事者及びその家族 《会員数》正会員…16家族28名 賛助会員…10名 1団体  
 《会の活動目的》高次脳機能障害が社会に理解され、この障害があってもその人らしく生きて行くことが出来るよう、皆様の相談に応じて、地域で安心して暮らせるように、医療、福祉、就労、教育などの関係機関と連携し支援を行うことを目的とし、皆で力を合わせてがんばっています。

※同じ悩みを持つ仲間がいます！この障害で悩んでいる方は、ぜひ一度ご参加ください。

## 難病相談・支援センター事業

難病相談・支援センターでは、難病患者さんとそのご家族が抱えている病気や日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、専門医や保健師、心理相談員等による相談をはじめ、同病者との交流支援や就労支援、医療講演会等の研修会、病気や福祉制度に関する情報提供、福祉用具や住宅環境の調整等に関する支援を行っています。

### ◆就労支援◆

センターでは、ハローワーク金沢に配属されている難病患者就職サポーター（以下、難病サポーター）と連携しながら就労支援を行っています。日頃から、「病気を機に仕事を辞めたが、これからどう生活していけばよいか」、「就労しても長続きしない」、「難病があり、なかなか就職先が見つからない」等の相談があり、難病患者が利用できる制度や支援について学ぶための就労相談会を毎年開催しています。今年度は脊髄小脳変性症や全身性エリテマトーデスなど5名の方が参加されました。さらに、新しく就労個別相談（予約制）を3回開催し、仕事の見つけ方や働く際の留意点、履歴書の書き方や病気の開示等について具体的に相談できる機会を作り、支援を行いました。相談者からは、「難病サポーターさんに親身に相談にのってもらえ、今後の方向性がみえて安心した」、「難病のある方でも働いている人が多くいることを知ることができ、とても励みになった」等の感想をいただきました。

センターに寄せられる相談は、40代50代の働き盛りの方からが多く、家族を支える立場であるがゆえに悩みも深刻であると感じています。今後も引き続き、就労相談会や個別相談を開催し、難病サポーターに相談しやすい体制を整えるとともに、ハローワーク等就労支援機関と連携を密にしながら丁寧な相談支援を行い、就労支援の充実強化を図っていききたいと思います。



就労相談会の様子



就労個別相談の様子

### ◆小児慢性特定疾病児童等自立支援事業 ～子どもの難病への取り組み～◆

この事業は、現在722疾病（14疾患群）が支援の対象となっています。今年度は、悪性新生物（小児がんの晩期合併症）、慢性腎疾患、糖尿病（1型糖尿病）について専門医等による相談会及び講演会を開催し、その後、必要な方に個別相談を実施しました。また、患者家族会と共催の医療的ケア児の家族交流会では、メンタルヘルスや子どもの姿勢をテーマに学習会を実施しました。

これらは支援者研修としても位置づけ、保護者と保育所職員、保健師など支援者が同じ場で学習することに意義づけをしており、各事業を通じて次のようなことを地域の課題として捉えています。

- ・病弱児、見えない障害の児童が学校等において合理的配慮が受けられるよう理解を深めることが必要であること。
- ・医療的ケア児の成長発達を保障する居場所が不足し、保護者の負担が大きいこと。
- ・長期や繰返しの入院加療が必要な児童には入院中の支援だけでなく、退院後には長期のフォローアップが必要であること。また、長い療養生活により社会性や自信の形成、就労困難が危惧されるが、支援に繋がらないこと。
- ・希少疾患ゆえに情報が少なく、本人、保護者、支援者ともに不安を抱いていること。
- ・本人、保護者ともに療養の正しい知識を持ち、病気の子どもの自立を考える親子関係について学ぶ機会が必要であること。

以上の課題解決に向けて、今後も関係者と連携を図りながら各種関連事業に取り組んでまいりますので、関係の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



## 難病相談・支援センターのピア・サポート事業

「ピア・サポート」という言葉をご存知ですか？ピアは英語で「仲間」という意味があり、似た体験や悩みを持ち、同じような立場や境遇にある者同士（ピア）が互いの経験を分かち合い、共感し支え合うことを指します。

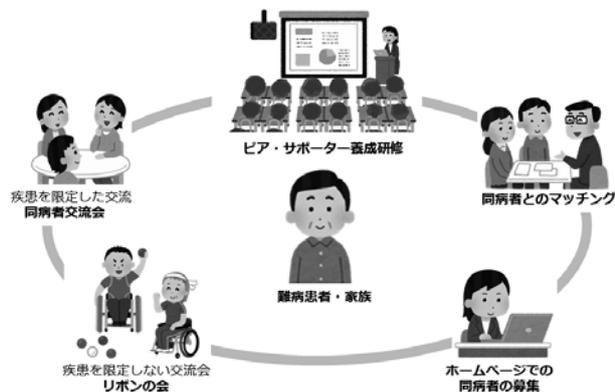
当センターでは、以下の事業を通じ、当事者同士が容易に繋がれるピア・サポート体制の強化を図っています。

### ◆同病者交流会（疾患を限定した交流会）◆

当事者の方から寄せられる「同じ病気の方と交流したい」という強いご要望にお応えし、新たに「同病者交流会」を開催しました。今年度は、「重症筋無力症」、「原発性胆汁性胆管炎（PBC）」、「再生不良性貧血」の3疾患を対象に行い、「同じ病気の人がいると思うだけで心強い」、「来年もしてほしい」等の感想をいただきました。

今後も、多くの方が同病者と繋がり、ピア・サポートを体験していただく機会として、対象疾患や回数を増やすなど検討してまいりますので、交流を希望される方は、ぜひ当センターまでご連絡ください。

### 石川県難病相談・支援センター ピア・サポート事業



### ◆リボンの会（疾患を限定しない交流会）◆

リボンの会は、難病であるがゆえに同病者同士の交流が難しい患者さんたちが、疾患を越えて交流を図る場所です。疾患が異なっても、闘病生活の不安やそれを軽減する工夫など共感できる部分をリラックスした雰囲気の中で情報交換しています。月ごとに手芸や運動などのテーマを設定しており、選択して参加することも自由です。各テーマを通じて束の間でも痛みや不安を忘れて楽しめる方、会での体験が趣味につながった方もいます。お気軽にご参加ください。

### ◆ピア・サポーター養成研修◆

全国的な難病相談・支援センターの課題に、専門職による「保健・医療・福祉など専門性の高い支援」と、ピア・サポーター（当事者）による「ピア・サポート」の両面の相談支援体制の構築があげられています。そこで、今年度よりピア・サポートを希望される患者・家族のご相談に対応していただく方を養成する「ピア・サポーター養成研修」を実施しています。基礎から応用までを学ぶ全6回のコースで、全課程修了者には修了証の交付及び登録を行っており、今年度は11名の方に登録していただきました。その中には患者会がない疾患の方も多く、今後のピア・サポーターとしての活躍を期待するところです。また、この研修は、患者さん自身のエンパワーメントの強化という側面もあり、疾患を抱えながらも無理をしないで自分ができることを見つけていただく機会となっています。

その他の事業として、同病者の個人と個人をつなぐマッチングの事業も行っています。4月にリニューアルした当センターのホームページでは、新たにピア・サポートのページを設け、主に交流についての情報を掲載しています。その中には、交流を希望される方が疾患名を掲載して同病者を募るコーナーもありますので、掲載を希望される方はセンターまでお問い合わせください。

→ ピア・サポートのページ：<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/peer/ipeer.html>

#### 問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail [iprc@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:iprc@pref.ishikawa.lg.jp)

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>

難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail [nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp)

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

#### 「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは  
県民ニーズに応えるため、  
より質の高いサービスの提供を  
目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター  
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1